

平成5年度 BELCA 賞 ロングライフ・ビルディング部門 表彰作品

三井本館

所在地 中央区日本橋

用途 事務所ビル

竣工年度 1929年

所有者 三井不動産(株)

設計者 トロウブリッジ・エンド・
リヴィングストーン社

施工者 ジェームス・スチュワート社、
清水建設(株)

維持管理者 三井不動産(株)



〔審査評〕 三井本館は、旧三井本館が関東大震災で内部が焼失したあと、当時の日本の経済を代表するグループのひとつである三井財閥の本拠に相応しいものを建設しようということで、近代建築の先進国であるアメリカの設計と施工により、重厚壮麗なデザインと耐震耐火性に優れた建築を指向して計画された。建設資材も最高の品質のものを広く世界に求めるという方針のもとにすすめられ、大正15年（1926年）に着工し、昭和4年（1929年）に竣工している。こうした東京の経済の中心地区のひとつである日本橋を象徴する建築として成立し、隣接する日銀本店と共に日本橋の顔として多くの人に親しまれ、現在に至っている。三井グループ主要各社の本拠として数多くの逸話も残っているように、昭和の歴史を刻んできている名建築である。

外装のコリント式オーダーを用いたアメリカ風古典主義による壮麗な花崗岩の柱型は、その内部が構造体の鉄骨と耐火被覆としての充填コンクリートとで構成されていて、ブロンズによる外壁廻りのサッシと共に、60有余年を経過してもビクともしない堅牢さを誇っている。2層吹き抜けで、総大理石貼りの床・壁・柱と彩色した格天井による銀行営業室の華麗な内部空間や、さん然と輝く金庫室などは、今でも私達を驚嘆させる。また、役員室や会議室などの化粧モールディングをつけた木製内装仕上や建具は、その手入れの良さもあって、現在でも素晴らしい出来栄を私達に見せてくれる。こうしたこと以外にも随所に質の高いディテールが見られると共に、それを現在まで使い続けられるようにしているメンテナンスの良さがわかる建築である。なお、この建築はオフィス系ビルとしては当時殆ど例のなかった完全冷房設備を設けていたが、あまり例の多くなかったその運転管理への努力とその見事さはよく知られていたことのようなのである。その後、時代の変遷と共に設備の改修を加え、現在は別建物に設けられた冷温熱源プラントを使った地域冷暖房システムによっている。

三井本館はこのように建設当初の良さをそのまま保持し続けながら、時代への適切な対応をしていくことによって、現在も三井グループ主要各社の本拠として使われ、更に将来にわたって新しい歴史を刻んでいくにちがいない建築である。